

令和6年度第6回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和7年2月13日（木）午前9時30分～午前11時

ところ：市役所5階 504会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 10人

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 小平市小川駅西口複合施設条例の制定について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和7年二十歳の集いについて（報告）
- (2) 第21回小平よさこいスクールダンスフェスティバル in 2025について（報告）
- (3) 第18回多摩六都ヤング・ダンスフェスティバルについて

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（1月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（3月）について

【図書館】

- (1) 津田図書館の臨時休館について
- (2) 図書館主催イベント（12月～2月）について（報告）
- (3) 図書館主催イベント（2月、3月）について

<その他>

なし

3 議題及び事務局報告等についての意見・質疑応答

○委員 資料No.1－1の中段、（3）事業の③複合施設の一体的な活用によるにぎわいや憩いの創出に関することについて質問したい。小川西町の近くにはブリヂストンの工場や商店街がある。それらを取り込み、地元の地域性を生かした、よりよいものにしてもらいたいと思うが、何か具体的に想定されているものがあれば教えていただきたい。

○事務局 再開発ビルの北西側に約1,000平方メートルの、にぎわい広場も整備をする予定である。この広場があることで、駅を出た人が北側へ行く動線をつくり、そのさらに北側には商店街があることから、そちらへの人の流れができればよいと、計画の段階から考えていた。

また、具体的なことを考えるのはこれからの段階であるが、4つの施設が複合化してその相乗効果ということだけではなく、近隣の企業等も含めた地域の中での相乗効果ということも意識して検討を進めていきたい。

○委員 条例の中に、市民参加、パブリックコメントの活用、ニーズなどは記載しないのか。それらを活用し、つくり上げるということなのか教えてほしい

○事務局 条例を制定する際、権利の制限や義務を課すことを規定する場合は、必ずパブリックコメントをすることとなる。今回の条例は、整備基本計画策定の段階から様々な形で市民参加を行い、ご意見等をいただきながらつくってきた内容を、条例の形に一旦整えたものという位置づけになることから、本条例の制定にあたり、改めての市民参加は特段していない。

ただし、既存の各施設の利用者、関係者からは、場所の移転や複合化など、新たな変化が生ずることに対する不安の声も届いている。そのことを踏まえ、関係団体等の方々とは、条例や指定管理者制度導入に関しての意見交換を、比較的綿密に行った上で進めてきている。

○委員 指定管理者に関しての意見交換については、自分も出席した。それが該当するか、確認するため質問した。

○委員 すばらしい施設だと思う。利用したいと思っている。小平市の中で、この施設から離れている市民が利用しやすいよう、にじバスの利用など交通の便の配慮は考えているのか。

○事務局 市の都市計画マスタープランでは、小平市を西、中央、東の3つの地域に大きく分けており、小川駅周辺地区は、西地域の拠点としての役割を期待するエリアの位置づけとなっている。再開発ビルは、小川駅に隣接という形になることから、アクセスとしてはかなり行きやすくなっている。また、今まで小川駅の西口は道路が狭隘であったが、ロータリーができ、車も近づくやすくなる。様々な意味で、アクセスしやすくなると考えている。

○委員 条例の別表を拝見した。使用料として、多目的室使用料、時間が示されている。しかし、スタジオ使用料は1時間とのみの記載であり、時間が示されていない。どのように整理したのか伺いたい。

○事務局 別表の使用料は、多目的室などについては、午前、午後、夜間という3つの区分になっている。こちらは既存の公民館などの部屋の貸出しのときと同じ3区分ということになっている。防音スタジオなどの貸出スペースは、これまでの公民館の中にはなかった形の部屋という位

置づけであり、複合施設ができることで新たにつくった場所の位置づけである。このスペースは、若い方などに積極的に使っていただきたいこともあり、1時間単位で使っていただくことを考え、このような料金体系としている。何時から来ていただいても1時間当たりでこの金額ということ想定している。

○委員 以前、三島市の社会教育に関する施設ができたとき見に行ったことがあった。その施設で一番稼働率が高いのが、スタジオであった。小平にはそのようなスペースがないと言ってきたが、初めてここにできることから、若い人たちに柔軟に使えるようにしていただければと思う。その点でもにぎわいがさらに創出されるのではないかと思う。

○委員 資料No.6のオール公民館まつりの日程について質問がある。例年5日間の日程であったが、今年度は2日間の日程である。その違いは日程が減ったとのことなのか。

○事務局 オール公民館まつりは、日曜日を最終日として今まで5日間実施していた。2日間は発表や実演などを行い、その前の3日間はギャラリーでの展示を行い、ご来館いただいていた。今回、実行委員の皆様から意見が出て、前半に関しては来館者が少ないこと。それから、当番制で実行委員が受付当番をする部分について、人手を出すのが負担になってきたことから、2日間に集約し、たくさんの方に来ていただこうとなり、今年度から2日間に短縮された。

○委員 ギャラリー部分については、他に別の機会があるのか。

○事務局 ギャラリー部分は、5日間同じものが展示されていた。今回は5日間ではなく、土曜日、日曜日の2日間に同じものがギャラリーで展示されることになる。

○委員 オール公民館まつりについて意見がある。本当に幅広い世代の人が参加できており、とてもすばらしい企画だと思う。内容をみると、小学校から高校、大学まで、また、様々な公民館利用団体、年配の方とかも参加される教養講座などがあり、とてもすばらしいと思う。さらによくするためにどのようなことができるか考えてみた。例えば働き盛りの世代の方などが関われるものがあればさらによいかと思った。昨日母とこの話をした。母は昔、私が小平第二中学校に通っていた。かつて中学校のPTAの企画で、資生堂の人事の方を講師とした「人を育てる」ということをテーマにした講演会を開催したとの話を聞いた。PTAの企画する講演会は、通常、母親ばかりが集まるものであったが、その講演会は男性の方が女性よりもすごく多く、しかもビデオカメラとか担いできて参加している男性の保護者もあり、衝撃的であったとのことであった。その話を聞き、活動を盛り上げるためには、例えば公民館まつりの来場者とか参加人数を出すときに、来場者とか参加人数に加えて、世代集計や男女の集計も調べると、来ていない世代等のアプローチ方法が考えられたり、本当に必要としている世代へのさらなる熱い内容を盛り込めたりするのではないかと思った。

○事務局 現役世代の皆さんに多くご利用いただきたいことが公民館で課題になっている部分である。世代間交流ができるように、小学生、中学生、高校生など、若い皆さんにもご参加いただけるよう工夫している。また、小学生が参加すると、必ず保護者も参加いただけることから、現役世代をまずつかまえること。小学生など、小さい頃から公民館を知っていただくことに取り組

んでいる。昨年の11月は、子育て世代に向けてプレパパ・プレママの皆さんに参加いただけるような取組を行った。参加人数は少なめであったが、そうした取組を工夫していきたい。

来場者の年齢層、男女の区別については、ジェンダーの問題から、非常に聞きづらくなっている。そのため、今は男女別の集計を行っていない。年齢層についても、場合によっては非常に嫌がられる方もいることから、人数のみの把握に変化している状況がある。これらは今後の研究課題であると受けて止めている。

○委員 資料No.2の二十歳の集いについて、感想と質問がある。今年は実行委員が15人、準備に関わり、とてもすばらしい式典ができたと思った。自分が関わっている中学校の卒業生が立派に司会をしていた。そのことを中学校で話をした。その実行委員は、中学校の頃は、ほとんど目立たない生徒であったとの話であったが、二十歳の集いで司会を務めるほどに成長していて、社会性を身につけていることに自分自身、大変うれしく思い、学校の先生もとても喜んでいて、その姿を見た同級生たちにもよい影響があったのではないかと思った。その点でも、実行委員の存在が大きいと感じた。中学校で、実行委員がムービーの映像を撮りに来たのを見かけた。とても礼儀正しくて感心した。先生たちからも、大人になったねと声をかけられていた。

第二のアトラクションでは、小平青少年吹奏楽団による記念コンサートが実施され、また抽せん会もあり、会場はすごく盛り上がっていてよかったと思った。

そこで質問がある。抽せん会で小平町の協力があつたが、自分が知る限りでは小平町からの提供は初めてではないかと思う。以前もあつたのか。今回提供いただいた経緯が分かれば教えていただきたい。

また、二十歳の集いに参加した知り合いの方に感想を聞いてみた。式典は参加してよかったとの感想であったが、地方の大学に通っている友人が、大学に通っていることから式典に参加できず、一緒に参加できなかったことが残念だったという話を聞いた。二十歳の集いが前の日の日曜日であつたら参加できたとの話であった。以前にも日曜であれば式典に参加できた、同窓会にも参加できたとの話を聞いたこともあつたことから、そのためにもアーカイブ配信をしていただいているが、二十歳の集いを日曜日に開催にすることはできるのか。

資料No.3のよさこいスクールダンスフェスティバルを見させていただき感想がある。どの小学校もこの発表のために一生懸命練習してきたことが伝わり、とても微笑ましく拝見させていただいた。当日の開会式のときの教育長の挨拶にもあつたが、こどもたちの健全育成に本当に大いに役立っている、すばらしい取組だと思う。

○事務局 小平町の景品については、いま確認できる資料では、これまでなかったと思われる。今回の小平町の景品は、市で毎年実施している小平町との青少年交歓交流事業の担当者間での話の中で決まった経緯である。

次に、二十歳の集いの日程であるが、成人の日を開催を行うこととしている。日曜日であれば都合がつく対象者もいると思うが、成人の日に行う形が定着している事業であることから、出席できない方には動画の配信で当日の様子を、見ていただければと思っている。

○委員 資料No.5の大沼公民館まつりの中段、舞台演奏等にあるブラインドサッカーの高橋裕人さんの講演会を聞いたので、その感想がある。高橋さんは、もともとお住まいは関西であるが、ブラインドサッカーが盛んに行われるのが小平市のMARU I ブラサカ！パークのグラウンドであることから、東京へ引っ越されてきた。高橋さんは、小学校入った頃はまだ見えていたが、小学6年生頃にほとんど見えなくなった経歴をお持ちの方であった。とても魅力のある方で、目が見えなくなっても、めげずにブラインドサッカーの道に進んでいったことを話されていた。高橋さんへの質問では、どうしてそんなに前向きなすてきな方になったのか質問が多く寄せられていた。ブラインドサッカーはマイナーなスポーツであり、多くの方が来場者がというのは難しいかもしれないが、このような方がほかのところでも少しずつでも話を進めていき、次の機会につながればよいかなと思った。

次に、配付資料「ひまわり」について感想がある。15ページの上水中学校の校長先生のコメントの中で、中学生のことが書かれていた。書くことで中学生は自分に向き合い、社会に向き合い、思いを深めていくとの内容であった。さらに作文集を読み、感じ合い、意見をぶつけ合うことができるものもこの文集の大切な役割であるとの内容であった。なかなか振り返り向き合うということが少ない時代かと思う。自分自身を振り返ると、常に先に先に詰め込み、覚えていくことが勉強だった記憶があり、このように自分と向き合うこときっかけとして、このひまわりが大切な役割を担っていることを認識することができた。今回の冊子が第45号であり、これまで、つながっているということであった。今後も続いていけばよいと思った。

○委員 「ひまわり」は発行が保護司会となっている。教育委員会の事務局ではないが、このような資料をいただいたことがありがたいとの感想を持った。

○委員 「社会を明るくする運動」小平市実施委員会は、小平市が主催であり、保護司はその縁の下での力持ちである。自分は編集に携わらせていただいている。このような感想いただけるのは非常に幸いである。定例会で発表させていただく、感謝している。

○委員 まず、二十歳の集いのほうから感想がある。青少年委員が準備から片付けから携わっていただいている。青少年委員が関わっていることが参加者に伝わっているのか気になった。自分は社会教育員として参加したが、青少年委員は準備から片付けまで携わっていて、心苦しかった、仕組みとしてあるのかもしれないが、アナウンスすることや、どこかに明記するなどがあればよいと思う。

次に、公民館まつりについて質問である。小平市薬剤師会が、大沼公民館と中央公民館に参加されている。参加に至った経緯を伺いたい。

次に、図書館について質問がある。2月9日の児童文学講演会、申込みが遅く行くことができなかった。3月1日の「AI時代におけるこどもの読書と学校図書館の役割を考える」については絶対行こうと、今申込み開始を待っている。その講演会がティーンズ委員会講師の方が来ることであり、教育委員会だよりも今回ティーンズ委員会大賞の本が紹介されているが、これらはティーンズに限らず大人が読んでもとても面白いことから、仲町図書館に行ったときには必

ずティーンズ委員会のコーナーを見るようにしている。今まで「カレーライスを一から作る」、「JK、インドでぶっ壊される」を読んでみた、大人が読んでも十分に考えるところがあり、ためになるなと思った。前も意見として発言したが、教育委員会だよりなどにより、こどもたちが今どういう状況であるか、学校がどういう状態であるかについて、をより多くの市民の方に知っていただけたらいいなと思う。どこかに配架されているのかもしれないが、興味のある方しか手に取られないと思う。多くの人の関心を集めるためには、何かいい方法がないか気になっている。

○事務局 二十歳の集いで青少年委員の活動については、青少年委員の広報誌「はつらつ」で、青少年委員の活動の一つとして、二十歳の集いについても触れている。青少年委員の二十歳の集いでの活動の、市としての発信は意見として承る。

○事務局 薬剤師会の参加については、健康推進課を通して薬剤師会がこのようなイベントにおいて薬事相談会を実施したいと依頼があり、参加いただいている。今まで中央公民館だけであったが、最近、分館でもブースを出してくださるようになっていて、参加者が非常に少ないが、薬に関する知識を深めていただきたい薬剤師会の強い思いが参加につながっていると考えている。

○事務局 ティーンズ委員会について。今年度も多くの中学生の方が参加いただき非常に活発な活動をしていただいた。教育委員会だよりに大賞を掲載し、今年度は市報の一面にも取り上げていただいたこともあり、これらを通じて来年度の活動においても、より多くの中学生、高校生が参加してもらうことを期待している。

○委員 二十歳の集いについて改めて意見がある。来賓は立って紹介を受け、おめでとうございますと伝える機会がある。参加している人たちに、皆さんのために頑張っているということをぜひ知っていただきたいと思う。

二十歳の集いについて、もう一点質問がある。参加率55.1%との報告があった。当日、会場の外にいる参加者がいた。これらの参加者は会場に入れなかったのか、自分から会場に入らなかったのか伺いたい。

○事務局 青少年委員の二十歳の集いの関わり方について、再度確認し、必要があれば、シナリオなどに、青少年委員が運営に協力している等、付け加えるなどの検討を行いたい。

また、会場の外にいる参加者について、希望してそこにとどまっているのかどうかというところの見極めが非常に難しい。今後の振り返りの中で検討を進めたい。

○委員 二十歳の集いについて感想がある。今年は参加しなかったが、例年、裏方という形で参加していた。関わっていた施設の、担当の児童が二十歳となり、振袖の着付けを2人分して参加させた関わり方であった。施設の卒業生で振袖を着ることが、振袖が高価なことから、なかなか叶わなかったことが過去にもあった。そのうち、無料で貸してくれる団体とかも誕生した。課関りのあった施設は、そのような団体から6着程度、振袖の寄贈があった。しかし、着付けできる者が施設にいなかったことから、自分が着付けの技術をと取得して、初めて着せることができた。自分か関わった施設はそのようなバーができていて、他の施設ではカバーができていない施設があるかもしれないと思う。今後何かあったらカバーができればよいと思っている。

○事務局 貴重な意見として受け止めさせていただく。

○委員 二十歳の集いについての感想である。二十歳の集いは10回近く参加させていただいている。最初の頃は、世間ですごく荒れた成人式のニュースが飛び交っていたときであり、小平市も世間ほどではなかったが、誰も聞いていない、こどもたちが大声で叫んでいる声が聞こえる成人式であった。この会議で、これまで意見が出ていたことであるが、年々よくなってきている。その理由としては、こどもたちが変わってきていることもあるかなと思う。また運営上いろいろ細かいところまで工夫していることがよくなっているのではないかという感想である。

次に、ティーンズ委員会の話である。自分も、例えば本屋大賞を受賞した本を予約に入れ、予約したことを忘れた頃に順番が回ってくることがある。このティーンズ大賞も図書館のホームページにニュースとしては載っているが、例えばティーンズ大賞、代々のティーンズ大賞の本の一覧があって、そこをクリックすると、その本の情報に行って予約が取れるような仕組みがあれば関心が高まるのではないか。そのようにワンクリックで予約できるようにしていただけたらありがたいと思う。

○事務局 図書館のシステムの中で予約や蔵書の管理をしている。一定の分野の本をまとめて予約を入れやすくする工夫など、今年は11月に図書館のシステムの入替え行うこともあり、少し研究していきたいと思う。

○事務局 二十歳の集いについて、今回は12人の方が実行委員に応募された。今年度の実行委員は本当に仲がいい実行委員であり、また、単に仲がいいというだけではなく、実行委員がいない学校についてムービーの撮影に、積極的に実行委員が学校を訪問して撮影に携わりムービーを作成したという経緯もあった。このような実行委員の働きがあった結果、素晴らしいイベントができたのかと思っている。

また、ムービーの編集についても本番の直前ぐらいまでいろいろな修正をしており、いつになったらできるのか、かなり心配していたが、実際出来上がったものをみたら素晴らしいものができていた。いいものをつくろうと真摯な気持ちから、丁寧に時間をかけていることが伝わるムービーであった。

○委員 資料No.3、小平よさこいスクールダンスフェスティバルについての感想である。自分の学校の児童も参加させてもらった。本当に素晴らしい舞台であった。放課後子ども教室の活動で関わりのある大学生が運営に携わってくれていることで、本校の児童も放課後子ども教室の中でよさこいやっているこどもたちが、本当に笑顔で楽しそうに演じていた姿が非常にうれしく思った。市内全校の小学校が出ることも、素晴らしいと思う。一番最後に客席の間にこどもたちが来て演技をしてくれる演出もとても素晴らしく、こどもたちが本当に目標を持って取り組み、明日に向けてこれを頑張る、自己調整的な力にもつながっていくところがあることを感じた。市民まつりでのパレードや、このよさこいスクールダンスフェスティバルなど、こどもたちの活躍する場を用意していただいて本当にありがたいなと思っている。

○事務局 小平よさこいスクールダンスフェスティバルについて、統括という立場で参加した。

舞台裏で感じたことは、舞台が始まる前、しっかりと整列をしており、日頃の指導の成果により、スムーズに進行できたことを感じた。

○委員 図書館のイベントについて感想がある。本当に多様なイベントがあることを感じている。公民館と図書館が競合関係で、切磋琢磨して、イベントを作り上げている印象を受けた。

○委員 図書館事業でのイベントについて感想である。様々なイベントをしていただいている。おはなし会、AIに関するもの、英語に関するもの、様々なイベントを実施しているという印象を受けている。本に触れるということは脳の活性化になり、勉学も進むと思っている。教育委員会資料にもあるが、学力試験でも小平はトップである。全国平均より高く、東京都よりも高い評価になっている。こどもたちが文化の時代で、比較的、曖昧な時代になっている中で、やはりひらめきとかアハ体験とか、そうしたことを小学生時代のときからしていくということがすごく大事だと思っているので、そのような企画をお願いします。